

問 町内小、中学校適正配置方針は

答 町長と協議する

Q 学校適正配置方針の説明会で、住民の声を聞かれた教育長の所見は。

A 教育長
多くの住民の意見を整理し、教育委員会で取りまとめ、町長と協議し、住民に報告する。

Q 町長の考えはどうか。

A 町長
教育委員会が、統合する判断をし、町は学校設置をどう考えるかが順序であり、今は申し上げる時期でない。

Q 神石小、中学校共同の給食施設設置を要

Q 請したが検討結果は。食材の中国製冷凍食品の使用は。

A 教育長
給食施設は20年度で検討する。
冷凍食品の使用はない。将来、二幸小学校が統合した場合、田頭地区の子供は神石小学校



久保田龍泉議員

A に通学させるべきでは。教育長
保護者の意見を尊重する。

Q 永野循環線バス廃止後の交通の確保と、おでかけタクシーの見直しは。

A 町長
新年度地域公共交通会議を立ち上げ検討する。

Q 神石高原町音頭・踊りを提案したが、検討結果は。

A 町長
住民から盛り上がりがないといけないので状況をみて行う。

Q 学校卒業後、地元に残る若者に対し支援する考えは。

A 町長
農業に対する就業支度金、就職支度支援を考えて、今後対応したい。

Q 井関定住団地の責任は、事業組合か町か。

A 町長
最終責任は町にある。



神石小学校卒業式



子ども放課後教室 グラウンド・ゴルフ

問 「読書推進」どう取り組む

答 「読書週間」年3回、全町民で

Q 町を挙げての「読書」推進への取り組みは。

A 町長
「人と自然が輝く高原の町」を目指し、豊かな心を育む「読書」を推進する。春と秋、夏休みの年3回の読書週間で定め、全町民で取り組む。

Q 具体的取り組みは。

A 教育長
図書館図書の実用と利用促進に努める。
読書感想文コンクールや広報誌への感想文の掲載、ポスター・しおりの作成を検討している。

Q 幼児期からの絵本を通し親子のコミュニケーションを図るブックスタートを開始すべきでは。

A 教育長
乳幼児に本を読んで聞かせることはとても意義ある取り組みだ。乳幼児健診や育児学級などの機会を利用した取



寄定秀幸議員

り組みや、図書館の絵本を活用した取り組みを検討したい。

Q 本町のキャリア教育は。

A 教育長
文科省のキャリアスタートウィーク推進地域事業の指定を受け、昨年の夏5日間、町内4校の中学2年生全員が一斉に職場体験学習を実施した。多くの人との関わりで、授業では味わえない貴重な体験をするなど大きな成果があった。

今年度も各事業所と連携して推進する。

Q より実効性の有る鳥獣害対策を実施すべきでは。

A 町長
「鳥獣被害防止特措法」に基づき、より積極的な取り組みをする。

Q 悪臭の防止対策として臭気規制をすべきでは。

A 町長
県と連携で厳正に対処し、「悪臭防止法」に基づき、臭気規制を実施する。



グラウンド・ゴルフ大会（仙養ヶ原）

問 歳出抑制と自主財源確保は

答 歳入に見合った歳出が基本

Q 補助金などの減額は限界である。主産業の米、木材の安価は限界を越えている。

後期高齢者医療保険の年金天引きや原油高騰など生活費は直撃を受けている。財源確保に、住民の負担を強いる事は限界である。

。歳出抑制は、委託、貸借利用料と職員数の早期適正平準化で余地はある。

また、地域間格差解消のため、国・県に財源確保を要望する考えは。

A 町長 歳入に見合った歳出が基本で、このバランス



丸山達夫議員

は崩さない。合併後の補助金削減、米、木材価格の暴落、後期高齢者医療保険制度、食料品、原油高騰などで、町民の生活は苦しくなっている。歳出抑制は、町民に限りであることは認知している。

今年度の減反配分はJAが主体で決めている。認定農業者、農業法人などの数によって決定された。自主財源確保について町税増額は不可能で、利用料、使用料の値上げも限度がある。国からの交付金も自主財源であるが一定の制度がある。現在の国政の停滞、経済の低迷で、国・県からの歳入確保の難しいことは理解して頂きたい。

問 水源の里再生への思いは

答 クリーンと安全安心をアピール

Q 国の食料自給率の異常な低下や、バイオ燃料台頭により、世界の穀物相場が急騰している。

フードマイレージの大きさと、世界の水資源を奪い取る日本の食料輸入は限界である。今後の食糧不足が目

前となった今、わが国では山や田畑は荒れ、国土の崩壊も時間の問題である。

環境が保全されるべき中山間地に位置する本町を、次世代につなげるためには、水源の里の再生なくしてはあり得ない。20年度には本町でも県



赤木健二議員

内の先陣を切ってその調査が行われる。そこで、将来のあるべき姿、思いは。

A 町長 水源（源流）の里は、クリーンなイメージと安全安心をアピールし、都市住民との交流を広げ、有機農業などによる農産

物や特産品の開発で生きる道もある。全国水源の里協議会とおして本町の進み方を思いだしていきたい。

A 教育長 体験活動や伝統文化に触れる機会を提供し、人と人とのつながりや、この地のすばらしさを実

感させ、郷土を愛する子どもへの育成に努める。

A 企画課長 現在「水源の里」全国協議会に155の市町が加入している。

まず、都市の子ども達との体験交流をおして水源の里の活性化を図りたい。



ひろしまの森づくり植樹祭（田頭地区）